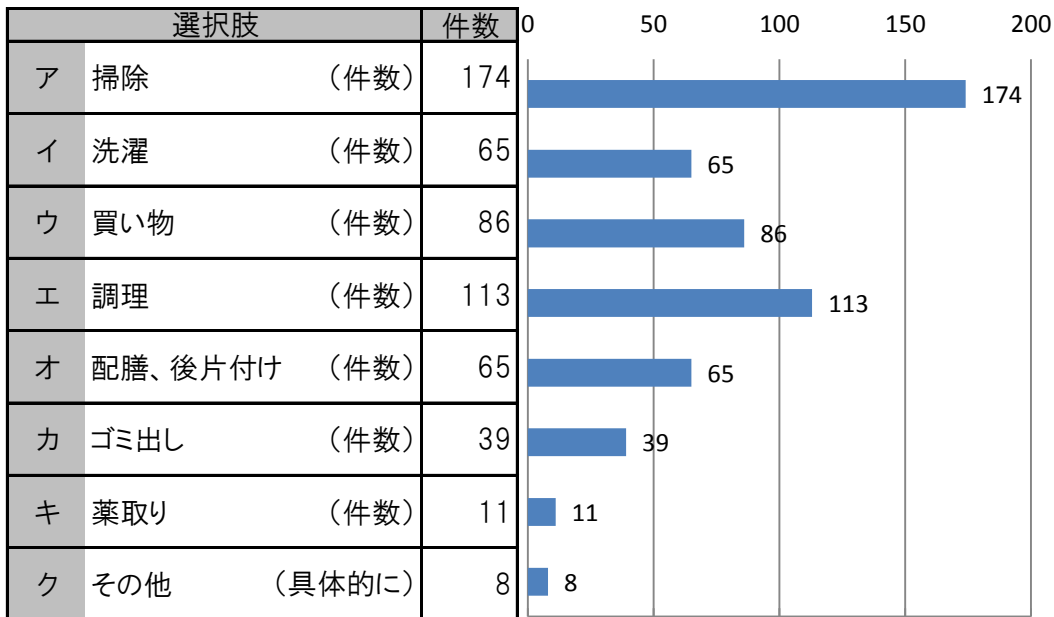


1.

担当しているケースのうち、訪問介護(生活援助)のサービスを導入しているすべての内容についてお答えください。(複数回答あり)

※調査回答数47件(うち該当なし・無回答6件)複数回答式

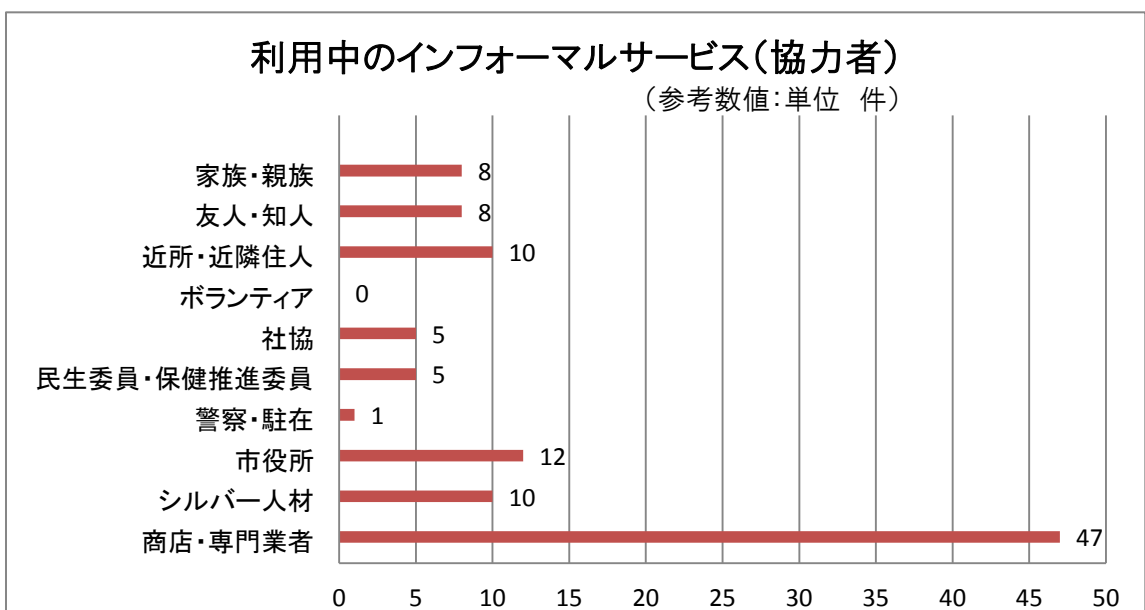
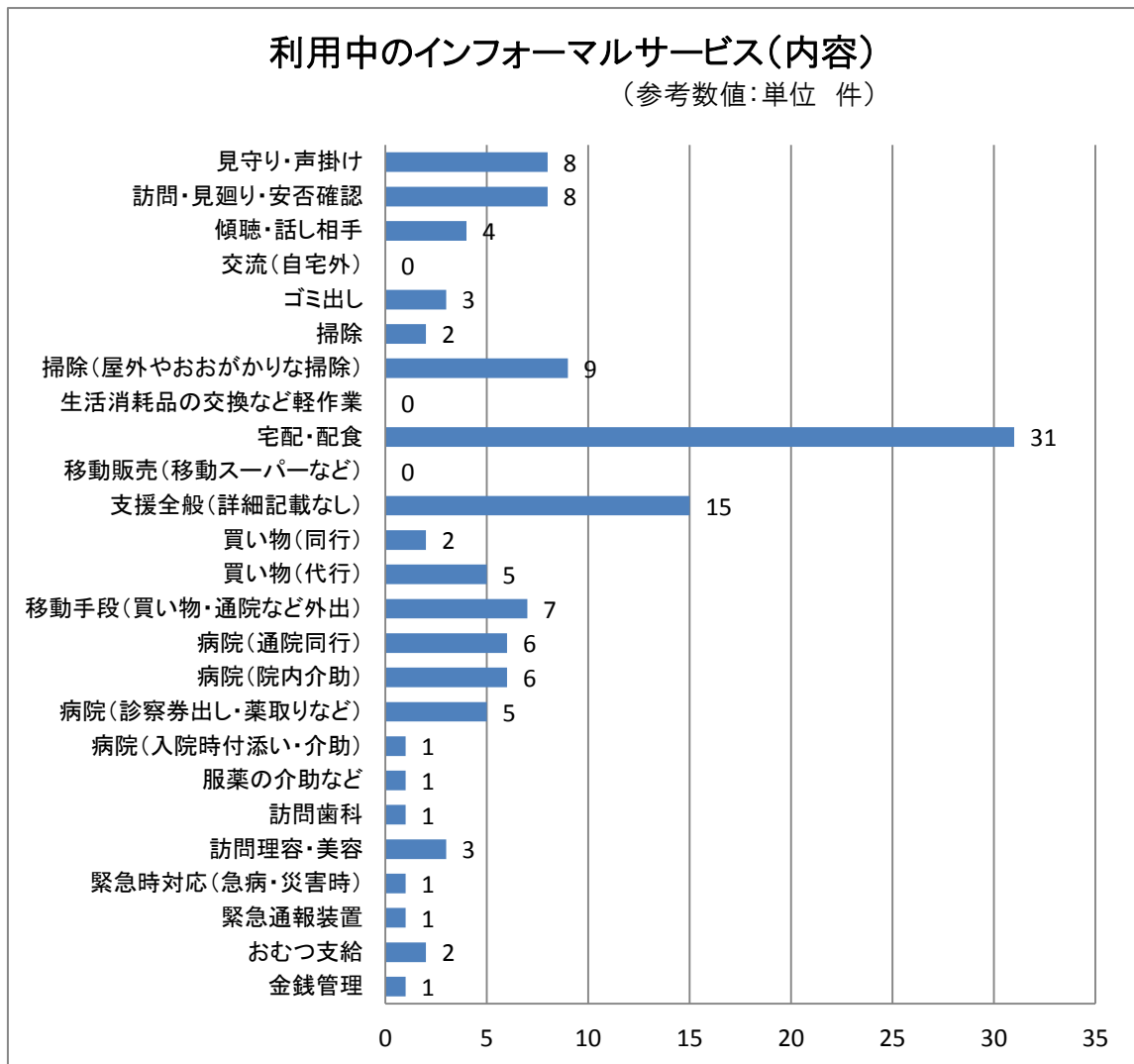


※【ク その他】内訳

- ・洗濯物の取り込み
- ・入浴の準備、声掛け
- ・入浴一部介助(見守り一部介助、湯張りは自立)
- ・ポータブル処理
- ・衣類の補修
- ・認知症の方の服薬確認
- ・布団干し(2件)

2. インフォーマルなサービスとして現在どのような利用がありますか。

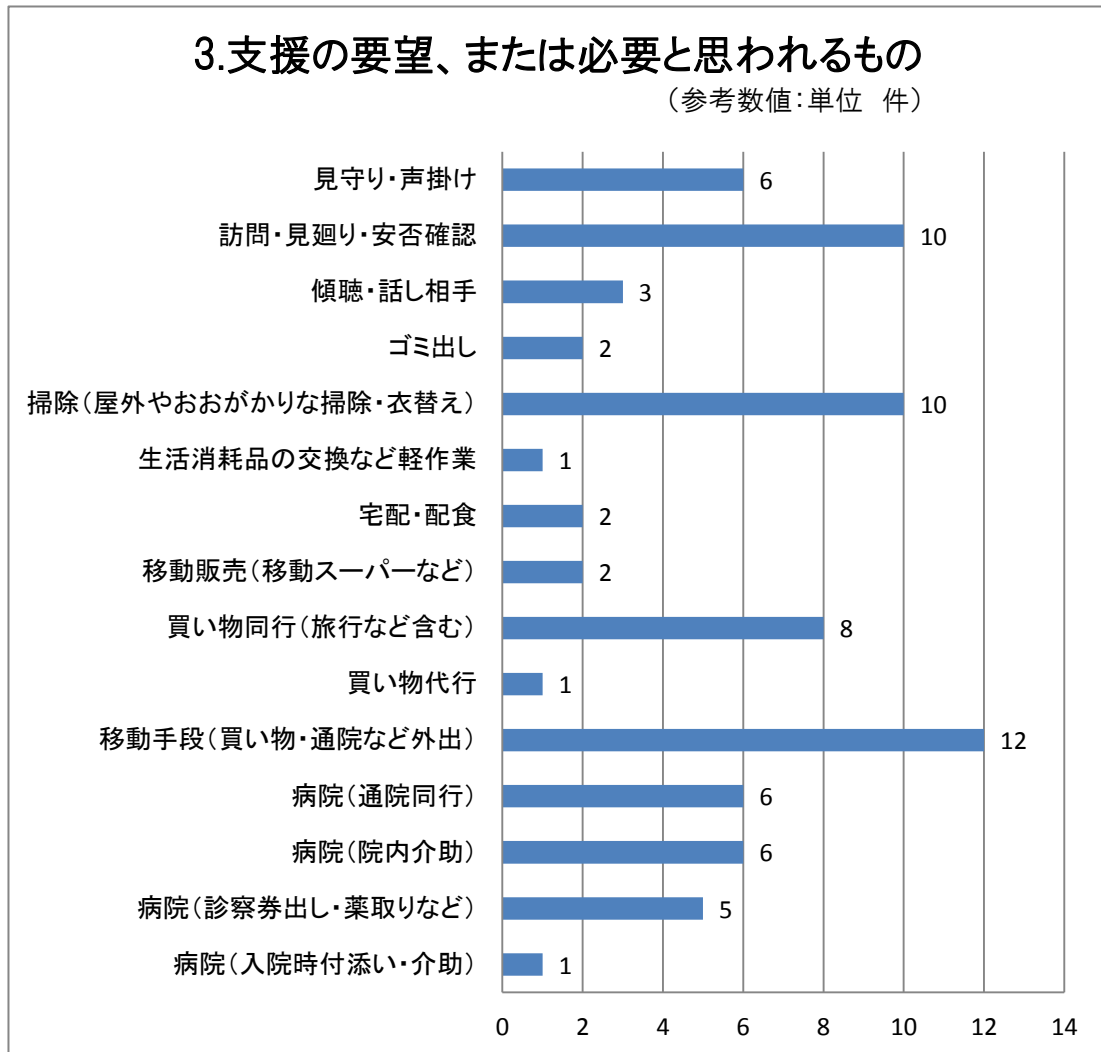
※回答は自由記載の為、完全な分類ではありません。複数回答式



3.

設問1、2の内容以外にどのような支援の要望がありますか。また必要だと思いますか。

※回答は自由記載の為、完全な分類ではありません。複数回答式



安否確認・見守りなど

安全協会さんなど、パトロール中の交通安全も兼ねて高齢者の生活の見守り活動

可能であれば定期的な見守り、声掛け

安否確認、見廻り、見守り、声掛け

戸締り

定期的な訪問：話し相手や体調確認、お弁当を配る（公民館などで作って）

独居、日中独居の方、高齢者世帯等への見守り、訪問、安否確認、声掛け

「特に介助の必要はないが、1人で家においておくことが不安な人」の話し相手や見守り

認知症、独居の方の見守り、安否確認

散歩

お茶飲み友達（安否確認を兼ねて）

緊急時の避難誘導、助け合い支援

交流・傾聴・話し相手など

近隣で集まれる場所の提供と活動の企画、提案

公民館でのお茶会

保育園児や小学校の子供たちによる訪問（子供が好きなお年寄りが多いので、お互いに笑顔で過ごせる時間が持てる）

お年寄りが学校訪問

近隣住民との交流の場の提供

元気な方が集まるサロン

話し相手

独居の方の話し相手

位置的に民生委員さんの下になるか解らないのですが、気軽にボランティアで自宅訪問して話し相手とかをしてくれるボランティアさんがいるといいですね。

個人宅への傾聴ボランティア

買い物代行・同行、外出・旅行同行など

乗合いタクシー

買い物（スーパーと連携とか週1回ボランティアで代行など）

買い物に行けない方へ近所の方の買い物支援（自分の買い物のついででいいので）

買い物の同行（近所のスーパーへ一緒に買い物に行く）

地域の商工会さんやお店屋さん協力いただく事が可能だといと思います（移動販売）

ゴミ出し

ゴミ出し(近隣の方と同じ収集日なので可能では)

以前、全盲で独居の方のゴミを区長さんをお願いしていたことがあります。(ゴミをまとめるまでは訪問介護に依頼)

ゴミ出し(ゴミ捨て場まで運んでくれるなど)

生活消耗品の交換・軽作業など

電球の交換などちょっとしたお手伝い

布団干し

病院受診(通院)・院内介助・入院など

院内介助、通院介助

病院の付添い

通院の付添い。駐車場や院内の移動の手伝い、受付などの手伝い(会計、薬をもらうなど)

病院・医院からの送迎サービス

通院するための交通手段としての循環バスが使用できないADLの時や、定期受診できるような介護者付のバスや車があると良い(独居、高齢者世帯、日中独居)

その他総合的な記載、分類外の回答

ボランティアする側、される側がマッチング出来ればどの支援も可能とは思う。

介護保険では出来ない援助

5. その他自由意見ををお願いします。

自宅内での支援については、信頼関係が必要

近隣でボランティア登録している方であれば、気兼ねなくお願いできるのではないか

ボランティアの育成、広報活動に力を入れる

急に体調が悪化した時など、すぐに対応できる無償のサービスがあると良い。これからもっと独居や高齢者世帯、または日中家族が仕事で留守の時間が長い方など、生活援助の幅は広がる。

若い人たちはお勤めされており、世代交代してしまうと、地域の中でもお年寄りがポツンと生活されているケースが多いように感じる。積極的に外出されたり、楽しみを持っている方ばかりではなく、自宅にこもりがちな方が、少しでも社会に参加出来るような、人と触れ合えるような場や、選択肢が地域で増えると良い。

施設の慰問等のボランティアの話はよく聞かすが、他人の事の支援(ボランティア)は、なかなか難しい。

近所との関係が希薄になってきているので、協力を求めるのは難しくなっている。

傾聴ボランティアが個別に訪問して頂けると良い。

買い物代行については、利用者本人の強いこだわり等があると、ボランティアや近隣者では対応困難なケースも考えられる。

独居、日中独居、認知症の方の見守りを地域で担う方法が出来ると良い。

近所にお喋りする場所、家に傾聴、話し相手の訪問が地域ボランティアであると不活発予防になる。定期的なパトロール訪問で実態把握が出来るので、早期発見、早期対応に繋がる。